

## ■ 特集-1 マルチモダリティで心筋虚血をみる

## シンポジウム「マルチモダリティで心筋虚血をみる」のまとめ

Symposium : Summary of symposium “Detecting myocardial ischemia using multi modality cardiovascular imaging”

東野 博<sup>1</sup> 佐久間 肇<sup>2</sup> 吉永恵一郎<sup>3</sup>

Hiroshi Higashino, MD Hajime Sakuma, MD, PhD

Keiichiro Yoshinaga, MD, PhD, FACC

松山ハートセンター よつば循環器科クリニック 放射線科<sup>1</sup>三重大学医学部 放射線医学教室<sup>2</sup>独立行政法人放射線医学総合研究所 分子イメージングセンター<sup>3</sup>Radiology, Yotsuba Circulation Clinic, Matsuyama Heart Center<sup>1</sup>Department of Radiology, Mie University Graduate School of Medicine<sup>2</sup>Molecular Imaging Research Center National Institute Radiological Science<sup>3</sup>

平成26年7月18日～19日に第24回日本心臓核医学会総会・学術大会が愛媛県松山市のひめぎんホールで開催された。大会2日目に心筋虚血に関するシンポジウム「マルチモダリティで心筋虚血をみる」が行われ、5名の先生に発表していただいた。

最初に公益財団法人日本心臓血管研究振興会附属榊原記念病院循環器内科の井口信雄先生からD-SPECTがもたらす新たな虚血評価法に関して、愛媛大学医学部附属病院放射線科の宮川正男先生から心臓専用半導体ガンマカメラDiscovery NM530cに関して発表がなされた。次世代の撮像装置として注目を浴びている方法であり、定量化の話題も提供されたが、宮川正男先生からはすでにルチンワークを見据えた腹臥位撮像の重要性や読影のポイントまで解説がなされた。

つぎに三重大学医学部附属病院中央放射線部の北川覚也先生から2管球CTによる心筋虚血と性状の評価と題して、愛媛大学大学院医学系研究科放射線医学教室の城戸輝仁先生から心筋虚血評価においてDynamic Perfusion CTは主役になれるか?と題して

発表がなされた。Perfusion CTは冠動脈CTに引き続いて、あるいは同時に検査可能であることから、臨床現場では最も期待値が大きく、臨床的な有用性や利用法が示された。北川覚也先生からは冠動脈CT-FFRについても一部議論があり、城戸輝仁先生からはオームの法則図にたとえてのFFRとPerfusion CTとの関連についても解説がなされた。

最後に大阪大学大学院先進心血管治療学寄附講座の角辻暁先生からAngio CTの可能性と題して発表がなされた。その冒頭で心臓に関する不審死が年間数万人との推定が示され、心疾患の早期発見や的確な診断と治療計画が必要であることを会場で議論し、非侵襲的な心筋虚血イメージングの重要性を再認識した。

冠動脈病変の非侵襲的診断法としては冠動脈CTが重要な地位を確立しつつあるが、つぎのステップとしての非侵襲的な心筋虚血イメージングの議論がますます活発になっている。Perfusion MRIやPerfusion CTだけでなく半導体装置やPETも含めた核医学領域の進歩も含めた議論がなされた。